北九P協しんぶん

発　行
北九州市PTA協議会
北九州市小倉北区大門一丁目6番43号
（北九州市立生涯学習総合センター2階）
☎(093)581−7268
発行責任者
会長 伊藤 一義

4月から小中一貫・連携教育がスタート

平成25年度から北九州市のすべての小中学校で「小中一貫・連携教育」がはじまります。

小中学校での取組にどのような影響を与えるのか、またPTAや地域は今後どのような対応が求められるのかについて取り上げます。

中1ギャップの問題

ここ数年、学習内容が高度化する中学校においては、子どもたちの中に、小学校段階に比べ、授業の理解度が低下したり、問題行動等が増加したりするといった多くの教育課題を抱えることがあるという、いわゆる中1ギャップが問題となりました。

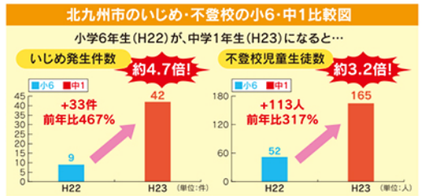
平成22年度の全国調査では

暴力行為の加害児童生徒数、いじめ認知件数及び不登校児童生徒数のいずれも中学1年生段階で急増するなど中学校での学習や生活への不適応の状態が見受けられます。

また、「授業の理解度」「学校の好き嫌い」について、中学生になると肯定的な回答をする生徒の割合が下がる、「学習上の悩み」として「上手な勉強の仕方がわからない」と回答する児童生徒数についても大幅に増加しています。

北九州市においても

「いじめ発生件数」、「不登校児童生徒数」については、平成22年に小学6年生であった児童が中学生に進学した段階の平成23年と比較し、ともに3倍以上に大幅に増加しています。



中1ギャップの背景

国の中央教育審議会では、中1ギャップの原因として、小学校から中学校に進学する際の接続が円滑なものとなっていないことが指摘されています。

その背景としては、例えば、学級担任制・中学校では教科担任制の授業形態の違いや、各児童生徒の小学校時点における学習上の問題が中学校と十分共有されていないなどの学習上の問題の共有が不十分であること。

【学習指導面】では、小学校では学級担任制・中学校では教科担任制の授業形態の違いや、各児童生徒の小学校時点における学習上の問題が中学校と十分共有されていないなどの学習上の問題の共有が不十分であること。

【生徒指導面】においては、中学校は小学校と比較して生徒に課せられる規則が多く、小学校よりも規則に基づいたより厳しい生徒指導がなされる傾向（生徒指導方法の違い）があることや、各児童生徒の小学校時点における生徒指導上の問題が中学校と十分に共有されていないなどの生徒指導上の問題の共有が不十分であること。

さらに、上級生や教職員との人間関係も小・中学校間で違いがあるといった様々なことが考えられます。

全国の取り組みの現状

こうした中1ギャップを乗り越えるために、全国の市町村において小中連携、一貫教育が推進されてきました。

ただ、小中連携、一貫教育は、制度的に位置付けられたものではなく、全国の学校、市町村において、小学校における教育と中学校における教育を円滑に接続させるために独自に取り組まれているのが現状です。

北九州市の取り組み

北九州市においては、平成25年度からすべての小中学校で小中一貫・連携教育が実施されます。

取り組み方針としては、

①施設として統合するのではなく、現在の小中学校の施設の下で、小中学校の連携による指導や教育の一貫を行う。

②まずは、教育委員会が提示する小中学校（中学校区）において行う。（ただし、積極的な連携校の拡大については、各校の判断で自由に実施）

③児童・生徒の学習指導、生徒指導上の課題の共有、対応策について共通理解を図り、創意工夫ある取り組みを実施する。

となっており、可能なことから取り組み、少しずつ充実させるとしています。

具体的には、中学校教員による小学校への出前授業や小中合同の教職員研修会、小学生の部活動体験や中学校行事への参加、小中学校・地域との合同行事などの取り組みが考えられています。

PTAとしても、小中合同の行事に取り組むことにより、小学生の中学校生活への不安の軽減、中学生における自尊感情の向上などの効果が期待できます。

教育委員会指導企画課長 横田さんのコメント

保護者の皆様、こんにちは。平成25年度から、児童生徒の学力・体力の向上や中1ギャップの解消等を目指して、小中一貫・連携教育を実施します。具体的には、小中学校では、本市独自の小中一貫・連携／学習指導資料・生徒指導資料等を参考にしながら、小中相互の教職員、児童生徒の交流等を通じて、義務教育9年間を通じた学習指導・生徒指導の充実に取り組んでまいります。小中一貫・連携教育の実施にあたっては、小中学校の教職員が学校種の壁を超えて意見や情報を出し合い、チームワークを発揮しながら、児童生徒の現状・課題に応じた創意工夫ある取組を進めていくことが大切です。口で言うのは簡単ですが、実際には大変なことだと思いますので、保護者の方にもそのような目で温かく見守っていただければ幸いです。また、中学校区によっては、小中学校と保護者、地域の方との合同行事等の取組が進められていくと思いますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会長・副会長も勉強しています！

～会長・女性副会長研修会～

1月19日、小倉北区内のホテルで北九州市PTA協議会（「以下市P協」主催の会長・女性副会長研修会が開催されました。

研修会に先立ち「平成24年度環境もったいない作文」の表彰式と教育委員会指導企画課長横田愛さんによる小中一貫・連携教育の取り組みについての基調講も実施されました。

会長・女性副会長研修は、PTA運営で様々な問題に取り組んでいる仲間として、コミュニケーションを深め、今後の活動のヒントにしてもらうことを目的に開催されたもので、「PTA活動をよくするためには等のテーマについてグループ構成を変えながら、できるだけ多くの参加者と考え方を共有していく、ワールドカフェ方式で参加者が熱心に話し合いを行いました。

今回の研修では、北九州市総務企画局シティプロモーション担当課長の小石さんが「ひと美都創造（ひとびとそうぞう）」をキャッチフレーズに、北九州市の市民活動や自然環境などのいい部分を評価することにより、北九州ブランドを高めるという視点から、PTA活動についても前向きに考えてもらおうと進行していただき、和やかなムード中研修を修了しています。

参加者からは「PTAをする時間がない。人付き合いが面倒だ、などのマイナス面ばかりクローズアップされるのは良くない」、「PTAをすることで子どもとの会話が増えた。地域の人たちと親しくなり、色々助けてもらった。なにプラス要素をPRすることが大切」などの声が聞かれました。

来年度も市P協としては、各PTAの会長や役員を支援するため、同様の研修を企画する予定です。

元気いっぱい No.30

作：岡崎美穂

information_no.1

環境「もったいない」作文募集 結果発表

北九州市PTA協議会と（公財）北九州活性化協議会もったいない総研は共催で、未来を担う中学生が環境問題への関心を深めて頂くことを目的として、環境「もったいない」作文を募集しました。各校より1,039件の応募があり、1月25日（金）にその中から8名の方が受賞しました。

環境作文応募数

東郷中学校[43]	篠崎中学校[104]	湯川中学校[7]	高見中学校[82]	熊西中学校[98]
戸ノ上中学校[1]	南小倉中学校[2]	吉田中学校[1]	中央中学校[14]	
早鞆中学校[11]	広徳中学校[2]	高須中学校[175]	槻田中学校[80]	合計 1,039件
霧丘中学校[4]	志徳中学校[5]	枝光台中学校[4]	花尾中学校[108]	
思永中学校[19]	曽根中学校[35]	大蔵中学校[50]	浅川中学校[194]	

環境「もったいない」作文 入選者

北九州市長賞
中央中学校 2年　内田　彩寧

北九州市議会議長賞
広徳中学校 2年　戸根　和哉

北九州市教育委員会賞
篠崎中学校 2年　宮﨑　一輝

北九州市環境局長賞
早鞆中学校 2年　籾井　真子

北九州市PTA協議会 会長賞
東郷中学校 2年　沖永　峻人

北九州活性化協議会 会長賞
南小倉中学校 2年　近藤　遥菜

北九州活性化協議会 理事長賞
曽根中学校 2年　藤冨友梨香

もったいない総研 委員長賞
高見中学校 2年　伊藤　陽香

information_no.2

小学生親睦駅伝大会開催 ～市内小学生が健脚競う～

2月24日、戸畑区の金毘羅池周辺で北九州市PTA協議会主催の第4回小学生親睦駅伝大会が開催されました。

この日は、天候に恵まれ、暖かい陽射しの中、市内の小学校から73チーム約500人と教育委員会職員やPTA協議会役員など大勢の大人も参加し、健脚を競いました。

競技は、5人1組で1周約1キロを5周する駅伝方式で行われました。

今回の大会では、市制50周年を記念して今年50歳を迎える役員と教員がチームを組んで出場した他、バルタン星人の仮装で子どもと一緒に走るなど駅伝大会を盛り上げました。

また、母親代表は朝早くから約500人分のぜんざいを作り、参加者に振る舞い、子どもたちが駅伝の合間に美味しそうに笑顔で食べる親睦大会ならではの光景も見られました。

入賞者（1位～6位まで）の結果は、右記のとおりです。

入賞者

男子の部	1 本城陸上クラブ	4 北小倉AC①
	2 槻田FC・A	5 すがお陸上クラブA
	3 北九州RIC	6 三郎丸360①
女子の部	1 木屋瀬RC・A	4 本城陸上クラブB
	2 木屋瀬RC・B	5 すがお陸上クラブA
	3 北九州RIC	6 そねっとA
低学年の部	1 高見小A	4 高見小B
	2 すがお陸上クラブ	5 井堀スポーツ教室D
	3 槻田ファイターズ	6 本城陸上クラブ

information_no.3

「親子でチャレンジ! 子ども1万人ヨサコイ」計画中

今年8月3日の「わっしょい百万夏まつり」で、市制50周年記念事業として、市内小中学生、保護者などの参加による「親子でチャレンジ子ども1万人ヨサコイ」が計画されています。

この計画は、「次世代人材の教育と地域貢献」を目的に、北九州市PTA協議会、わっしょい百万夏まつり振興会、北九州市YOSAKOI連絡協議会の3団体が、子どもを主役としたプロジェクトとして計画しているものです。

参加対象は、市内の小中学校、市民センター、地域団体、ダンススクール他、希望する学校、企業、団体としており、参加申し込みなどの募集方法については、詳細が決定次第、小中学校関係には、北九州市PTA協議会などを通じ広く呼びかけるとしています。

また、インストラクターやヨサコイチームによる、各区・各地区単位での練習会の実施や、サプライズゲストによる「学校訪問・ダンス授業」等も計画されています。

この夏は、「子ども1万人ヨサコイ」で親子一緒に"達成感"を味わいましょう。

教育懇談会で「PTAの日」を提案

平成25年1月25日に市内ホテルで市教育委員会と北九州市PTA協議会（以下「市P協」）で平成24年度第2回目の教育懇談会が開催されました。

今回の教育懇談会には、市教育委員会からは、柏木修教育長以下関係部課長、及び川原房栄教育委員長、吉田ゆかり教育委員、シャルマ直美教育委員の31名。市P協からは、伊藤一義会長以下20名が出席しています。

教育懇談会は、年2回学校教育に関する様々な事柄について、教育委員会と市P協で意見交換をするもので、今回の懇談会では、市P協から保護者のPTA活動への理解と参加の促進を図るため、「PTAの日」の創設を提案しています。

具体的には、土曜日授業などを利用し、学校の授業参観とPTA総会やPTA行事等をセットで実施するなどにより、多くの保護者がPTA活動を身近に考えてもらう契機とするものです。平成25年度は小学校において、6月以降に土曜日授業とPTA行事との連携について検討を要望しています。

また、この他、

○教育の原点は家庭教育でありながら、各学校で参加者集めに苦労している家庭教育学級の運営方法の見直し

○ゆとりある学校づくりのための教職員の加配の充実

○中学校教員の人事異動に伴う部活動の廃部等の影響への配慮

○学力向上の一環として、アフタースクールや朝自主、小中一貫教育連携事業等の積極的な活用

○平成25年度の特別支援学校の就学相談の取り組み目標

などについて要望や意見交換を行っています。

交通事故防止に向け福岡県警へ要望書提出

北九州市PTA協議会（以下「市P協」）は、平成24年11月30日に福岡県警北九州市警察部を訪問し、伊藤一義市P協会長から通学路の安全確保に向けた要望書を提出しました。

通学における交通事故としては、奈良県において、集団登校の待ち合わせ場所で未成年者の無謀運転により小学生を含む尊い命が奪われる事件が発生するとともに、北九州市においても、下校中の小学2年生の児童がトラックの暴走に巻き込まれ死亡するという痛ましい交通事故が発生しています。

このため、市P協では、小中学校や特別支援学校の2201校へ調査を行い、回答があった55校の要望を取りまとめました。

要望書では、小中学校や特別支援学校の通学路において、「横断歩道」、「標識」、「信号機」「ガードレール」などの設置が必要と考えられる201箇所について環境整備を要望しています。

北九州市警察部への通学路の安全確保に向けた要望内容一覧

	要望個数	信号設置	ガードレール設置	防止柵設置	標識設置	横断歩道設置	カーブミラー設置	交通規制	街灯設置	歩道橋設置
小学校	169	30	17	15	39	38	20	1	7	2
中学校	31	1	5	10	3	4	3	0	5	0
特別支援学校	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
総合計	201	31	22	25	43	42	23	1	12	2

PTA活動助成制度についてのアンケート結果

北九州市PTA協議会（以下「市P協」）が、平成25年度から導入を検討している各学校のPTA活動への助成金制度についての各校のアンケート結果を市P協内の総務委員会が12月に取りまとめました。

アンケートには、186件の回答があり、主な意見としては、「児童数が減少しており、助成制度は進めてほしい」、「他の学校でのPTA行事の状況や事業の進め方、予算などの情報が欲しい」、「助成制度の対象範囲や基準等を明確にして欲しい」などの意見が寄せられました。

また、助成制度を活用したい事業としては、

▼各学校のPTA事業

「親子ふれあい活動」、「PTA新聞作成」等の123件。

▼市民センターとの合同事業「家庭教育学級」等の25件

▼地域との合同事業「地域の祭り参加」、「もちつき大会」等の15件

▼近隣小中学校との合同事業「人権学習など各種研修」、「親睦スポーツ大会」等の12件。

▼連合会事業「親睦スポーツ大会」、「研修会」等の5件となっています。

今後、市P協ではアンケート結果をふまえ、助成が毎年度同じPTAに偏らないことや申請・報告の要件などの手順を検討したうえで、実施する予定です。

P協新聞モニターの声

◎関心をもった記事は?どういう点で?

尾倉中　ユネスコスクール認定

9名の人が一番関心をもっていました。生徒達の自主的な気付きと取組みがきっかけだという点

いんたびゅう

東日本大震災の復興は多くの問題点があり進んでいません。その中で北九州出身の大嶋さんがこのように活動を続けてくださっていると知り心強く感じました。改めて考えさせられました。

◎全体としての意見

はじめて拝見しましたが、どうも紙面が足りない感じがします。より濃い内容にするには倍は必要ではないでしょうか?この紙面数でいくのならば、テーマをしぼってはどうでしょう。

どの記事もとても魅力的でした。研究大会で発表された各学校の取組みや震災復興支援をされている方のお話など、よく内容が伝わってきました。

◎今後、取り上げてほしい内容、または望むこと

自分の子供が通う学校のPTA活動の幅を拡げるために他校の様々な取組みを学び、勉強させていただきたいです。

斬新なPTA活動を行っている学校の紹介等です。

◎PTA活動・子どもについての意見

共働き世帯が増えて「PTA活動に協力することが難しい」という方が増えてきているように感じます。皆が無理なく気持ち良く協力し合えるような環境が必要です。
（とても難しい問題だと思っていますが…）

*掲載できなかったご意見も含め、モニターの皆様の声を今後の参考にさせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

北九州市PTA協議会事務局が移転します。

北九州市生涯学習総合センターの耐震工事終了に伴って平成25年3月18日から、事務局が元の場所に移転します。

3月15日まで
〒804-0061 北九州市戸畑区中本町7-20
戸畑生涯学習センター2階

3月18日から
〒803-0811 北九州市小倉北区大門1-6-43
北九州市生涯学習総合センター2F　電話581-7268

穴生中の取組み

平成25年度から、市内のすべての小中学校ではじまる小中一貫・連携教育（1面参照）に、モデル事業として取り組んできた穴生中学校（八幡西区）の活動を取り上げます。

穴生中学校には、主に青山小学校・穴生小学校・竹末小学校・萩原小学校の4校の児童が小学校卒業後に進学しています。同中学校では、小中9年間を通じて基本的な生活習慣の確立を図り、生きる力を育むことを基本方針として、平成22年度から小中一貫・連携教育に取り組んできました。

1年目（平成22年度）

◎小・中連携合同清掃

［穴生中PTA・地域ボランティアとの連携］

萩原小3年生と穴生中2年生
青山小4年生と穴生中1年生

▲小・中連携合同清掃
（中学生と小学生でグループを構成）

◎小・中合同の研修会

小中学校の教師が3グループに分かれての意見交換（国語科、算数・数学科、生活指導）

◎4小学校への出前授業

小体連に向けた陸上競技について、中学校教師による出前授業

◎小・中合同の生活指導部会

［入学説明会・入学式に向けた情報交換］

中学校の校則の確認と小学校の取組の検討

◎相互の授業参観

穴生中学校の職員が4小学校の授業を参観。また4小学校の職員が穴生中学校の授業を参観。

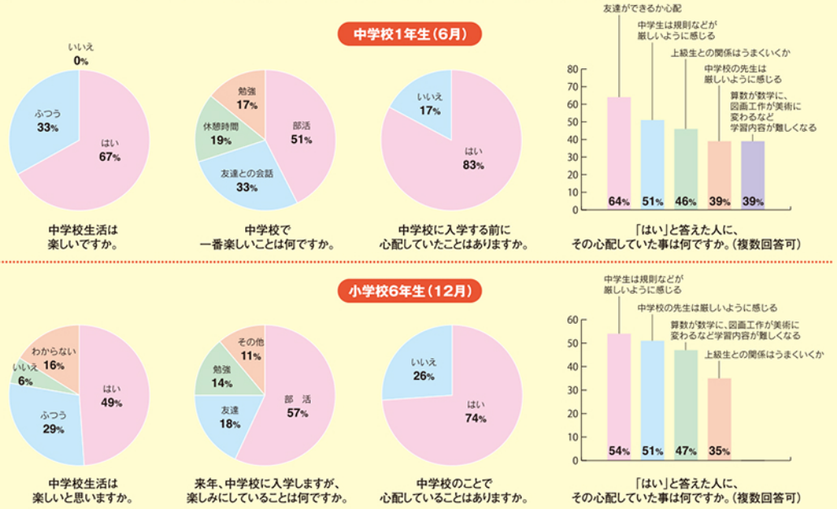
◎小・中合同の情報交換会

6年生担任・養護教諭と中学校3年担当・養護教諭など様々な取組を実施してきました。

2年目（平成23年度）

◎中学1年生と小学6年生を対象に、アンケートを実施

これからの連携推進の参考にするため、子どもたちの意識調査に取り組んでいます。



これらのアンケートからは、友達や上級生との人間関係や中学校での規則や教員、ならびに新たに学習する教科への不安など中1ギャップといわれるような、まだ経験していない中学校生活への漠然とした不安が感じられます。

同校ではこのアンケート結果を小中一貫・連携事業を考えるうえでの大切な視点と捉えています。

◎児童・生徒の交流の推進

また、児童・生徒の交流を図るために、小・中連携合同清掃の感想文（小学校より）や中学校美術部の作品展示（各小学校へ）など、児童・生徒の感想文・作品等による交流や小学校で実施する「夏の教室」やサマーキャンプなどに中学生ボランティアが参加しています。

「夏の教室」中学生ボランティア

合同清掃の感想文（小4）による交流

◎連携事業の成果としては

◎合同清掃や「夏の教室」への中学生ボランティアの参加は、小学生にとって中学生を身近に感じる良い機会となり、また中学生の自尊感情を高める場となった。

◎小学校への出前授業の一環としての陸上競技の指導では、6年生にとって中学校への準備段階として大変よかった。

◎小・中合同研修や授業交流・情報交換によって課題の共通認識を基に教員の小・中連携を図ることができた。

◎不登校傾向の児童・生徒や生活指導の課題に小中の教員が協力して取り組むことができた。

などとしています。

◎小中一貫・連携事業の課題

授業時間数の確保の面から、小・中の校時の調整が難しいことや、中学校の行事等に、4小学校の6年生全員が集まる取組が困難であること等が課題としてあげられています。

◎連携不足によるギャップを発生させない（今後の取組）

同校では、環境が変われば必ずギャップはあると考えたうえで、そのギャップを解消するための手だてを考えるとして、義務教育9年間を見通した基本的な生活習慣の確立と継続的な取組の実践を行うため、

◎出前授業の教科の拡大

◎中学校の校則についての取組（小5の後半から）

◎「自学ノート」の取組（小6の後半から）

◎50分授業の実施（小6の3学期）

など今までの実績を踏まえ、小中一貫・連携教育の取組を更に強化していく予定です。

いじめ問題講演会「福岡」で開催（文部科学省主催）

平成24年12月22日に福岡市の福岡商工会議所において、文部科学省主催による平成24年度いじめ問題に関する保護者講演会が開催されました。

この講演会は、保護者等のいじめ問題への理解や学校・教育委員会等のいじめ問題への取り組みの理解を深めてもらうとともに、学校・家庭・地域の連携協力により、いじめ問題への取り組みの推進を図ることを目的として、仙台・東京・大阪・福岡の全国4か所で開催された第1回目として実施されたものです。

北九州市からの参加者を含め、福岡県内のPTA関係者約150名が参加しています。

子どものコミュニケーション能力の低下がいじめ・不登校の要因

講演会では、松山赤十字病院副院長（成育医療センター長）小谷信行さんが、「いじめ・不登校への対策を学ぶ」というテーマで、子どものコミュニケーション能力がゲーム機器などの進展により低下しているという視点で、いじめは一種のコミュニケーション障害（関係性の障害）であると捉え、医師や心理カウンセラーと学校等が合同でカンファレンスを実施することや、松山市の小中学校に派遣し、保護者・学校にコミュニケーション技術を伝えている事例を紹介されました。

また、コミュニケーション能力を高めるためには、言いたいことをうまく表現する技術（コミュニケーションスキル）、パニックや怒りを感じたときに自分をコントロールする技術（セルフコントロールスキル）などを学ぶことが大切であるとの免疫アレルギー：心身症児童生徒への不安が広がっていることを懸念し、国として緊急にいじめ問題に関する児童生徒の状況把握の全国調査を実施したなどの報告がありました。

なおこの調査では、学校教員の積極的ないじめの認知が進んだことや、記述式から具体的な質問の該当項目に○印を付けるなどアンケート様式の工夫などにより、認知件数が平成23年度の7万件の2倍にあたる14万件を超えたとのアンケートの傾向についての説明がありました。

いじめは「傍観者」の存在により成り立つ

また、いじめの構造としては、いじめる側といじられる側という二者関係だけで成立しているのではなく、「観衆」としてはやし立てたり面白がったりする存在や、周辺で暗黙の了解を与える「傍観者」の存在によって成り立つため、教室全体にいじめを許容しない雰囲気と傍観者のなかからいじめを抑止する「仲裁者」が現れることが必要としています。

いじめを許さない学校づくりが大切

さらに、いじめの問題への取り組みとしては、すべての学校へのアンケート調査の実施に加え、各学校の実情に応じた「個別面談」「個人ノート」の活用やカウンセラー等の活用による学校の相談機能の充実、いじめを許さない学校づくりが大切であるとしています。

いじめ問題の解決のためには、学校・家庭・地域の社会全体でいじめ問題へ取り組む大人たちの姿勢が求められています。

子どものコミュニケーション能力の低下がいじめ・不登校の要因

講演会では、松山赤十字病院副院長（成育医療センター長）小谷信行さんが、「いじめ・不登校への対策を学ぶ」というテーマで、子どものコミュニケーション能力がゲーム機器などの進展により低下しているという視点で、いじめは一種のコミュニケーション障害（関係性の障害）であると捉え、医師や心理カウンセラーと学校等が合同でカンファレンスを実施することや、松山市の小中学校に派遣し、保護者・学校にコミュニケーション技術を伝えている事例を紹介されました。

また、コミュニケーション能力を高めるためには、言いたいことをうまく表現する技術（コミュニケーションスキル）、パニックや怒りを感じたときに自分をコントロールする技術（セルフコントロールスキル）などを学ぶことが大切であるとの免疫アレルギー：心身症児童生徒への不安が広がっていることを懸念し、国として緊急にいじめ問題に関する児童生徒の状況把握の全国調査を実施したなどの報告がありました。

いじめの認知件数14万件

この日は、文部科学省児童生徒課生徒指導室の鈴木慰人生徒指導調査官からいじめ問題に関して、最近のいじめは携帯電話やパソコンの介在により、見えにくいことや、どの学校でも起こりえるものと捉えていること、また平成24年7月の滋賀県大津での事案が大きく報道されて以降、児童生徒への不安が広がっていることを懸念し、国として緊急にいじめ問